

ご存知ですか？NTT災害伝言ダイヤル

大地震発生時には、電話線がパンク状態になり、一般家庭の電話がつながりにくくなることが予想されます。大規模災害時には、NTTの「災害伝言ダイヤル」で連絡が取れるようになっていきます。かけ方は「171」をダイヤルし、受話器から聞こえる案内に従って、伝言の録音・再生を行います。

【伝言を登録する場合】
「171」をダイヤルし、聞こえてくる案内に従い「1」をダイヤルします。次に自分の安否について家族や知人から聞いてもらえる可能性の最も高い電話番号(例えば自宅の電話番号)を市外局番から順にダイヤルし、案内に従って安否等のメッセージを録音します。

【伝言を再生する場合】
「171」をダイヤルし、聞こえてくる案内に従い「2」をダイヤルします。次に連絡を取りたい相手先の電話番号(自宅の場合は自宅の電話番号)を市外局番から順にダイヤルしてください。

※災害伝言ダイヤルについて詳しくは、NTTのテレホンサービスまでお問い合わせください。
◎伝言録音時間…1伝言あたり30秒以内
◎伝言保存期間…録音してから2日(48時間)
◎伝言蓄積数…1電話番号あたり1～10伝言(被災規模に応じ設定)

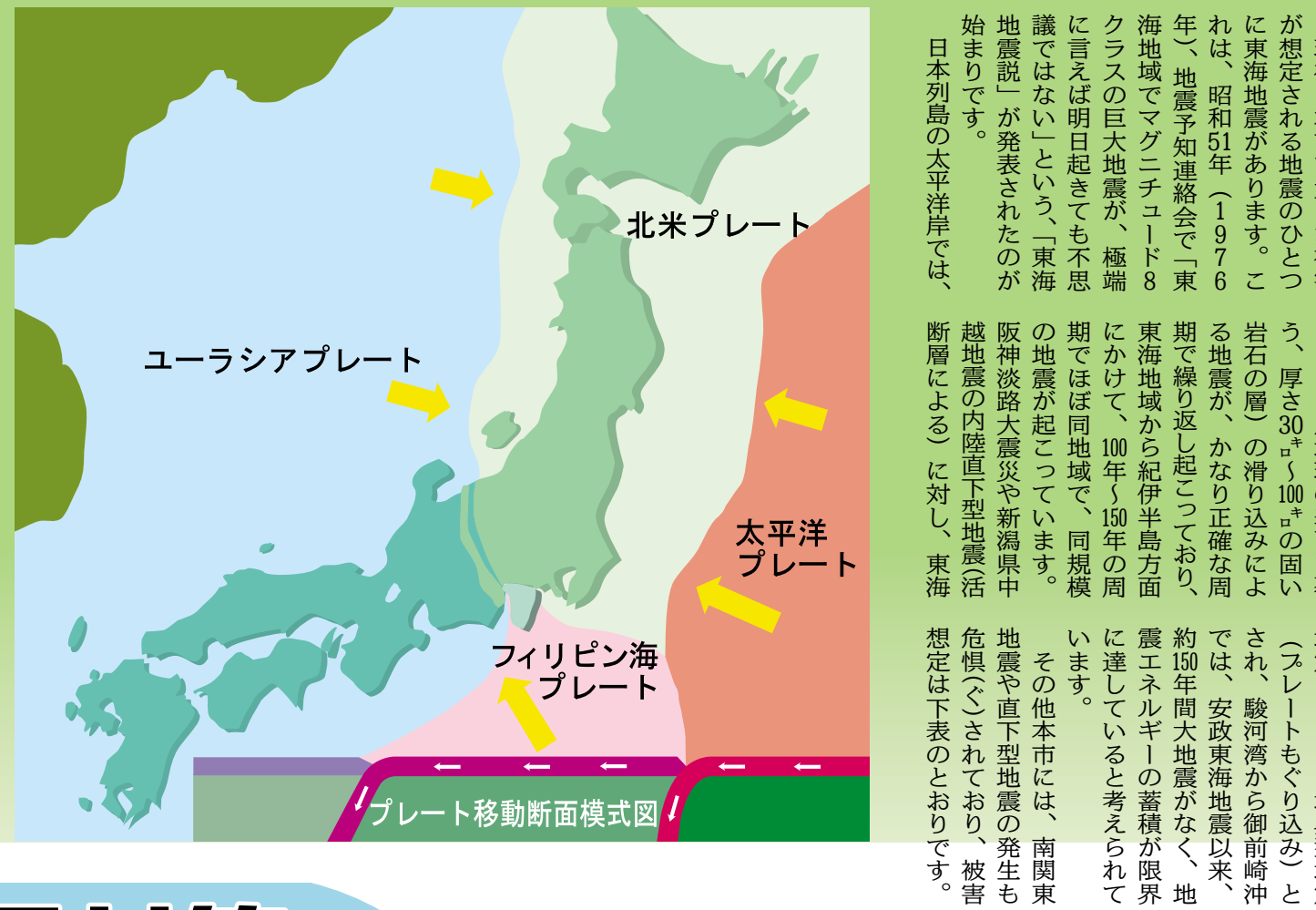
※NTTでは、災害時でも公衆電話は通じるようにしていますので、自宅の電話が不通だった場合、緊急連絡に公衆電話を利用することも有効です。



問 消防本部 予防課
☎231-0394

年始め 地震の備え万全に

M8-海老名を襲う恐れ



現在、本市で大きな被害が想定される地震のひとつに東海地震があります。これは、昭和51年(1976年)、地震予知連絡会で「東海地域でマグニチュード8クラスの巨大地震が、極端に言えば明日起きても不思議ではない」という、「東海地震説」が発せられたのが始まりです。日本列島の太平洋岸では、

プレート(地球の表面を覆う、厚さ30〜100kmの固い岩石の層)の滑り込みによる地震が、かなり正確な周期で繰り返して起こっており、東海地域から紀伊半島方面にかけて、100年〜150年の周期でほぼ同地域で、同規模の地震が起こっています。阪神淡路大震災や新潟県中越地震の内陸直下型地震活動は、その他本市には、南関東

地震はプレート境界型地震(プレートもぐり込み)とされ、駿河湾から御前崎沖までは、安政東海地震以来、約150年間大地震がなく、地震エネルギーの蓄積が限界に達していると考えられています。

また、本市には、南関東

いつ起こるか分からない、いつ起こっても不思議ではない巨大地震、被害を最小限に抑えるには、地震の怖さを知り、地震に対して適切に行動することが大切です。そのためには、子どもから大人までが心の備えを持つことが重要です。台風等の風水害は、あらかじめ被害を受けそうな地域、時間を予測して備えることができますが、地震は、いつ、どこで発生するか予測することが困難です。今回の特集では地震による被害を最小限にするために、私たちが心がけ、備えておく事項を紹介いたします。年の初めの一日、家族団らんの場で地震について考えてみませんか。

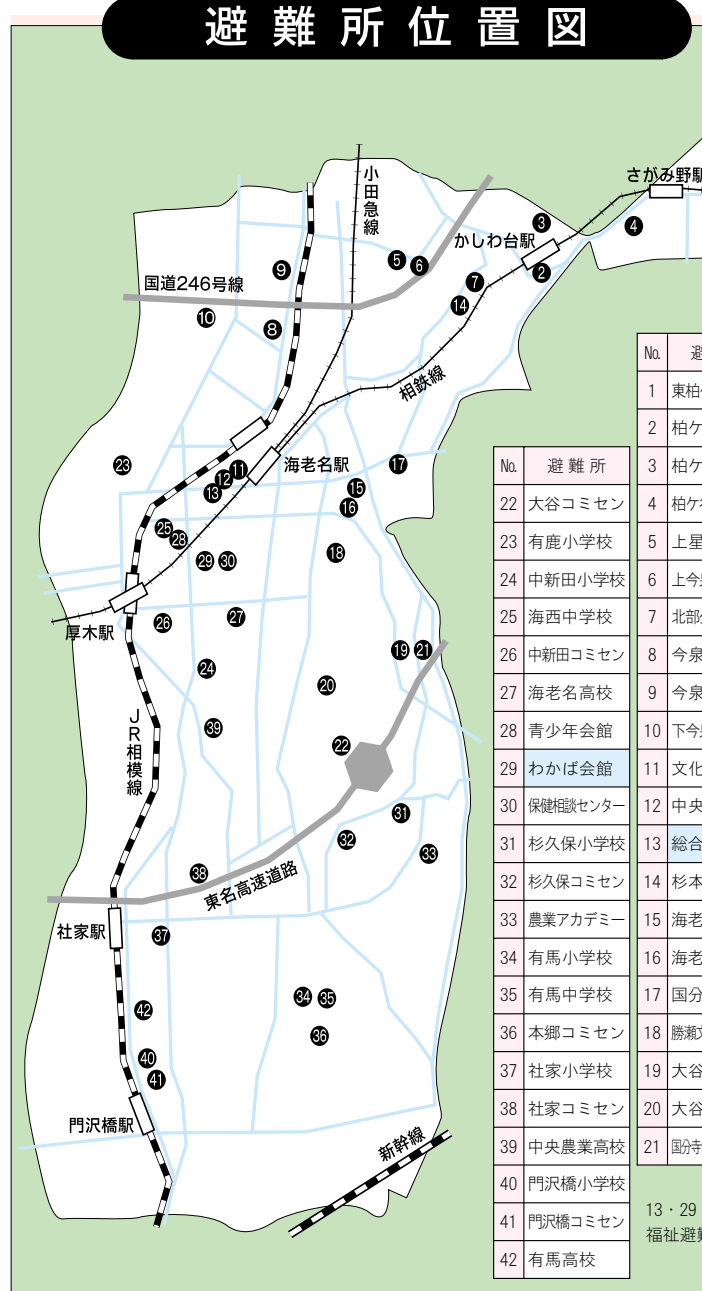
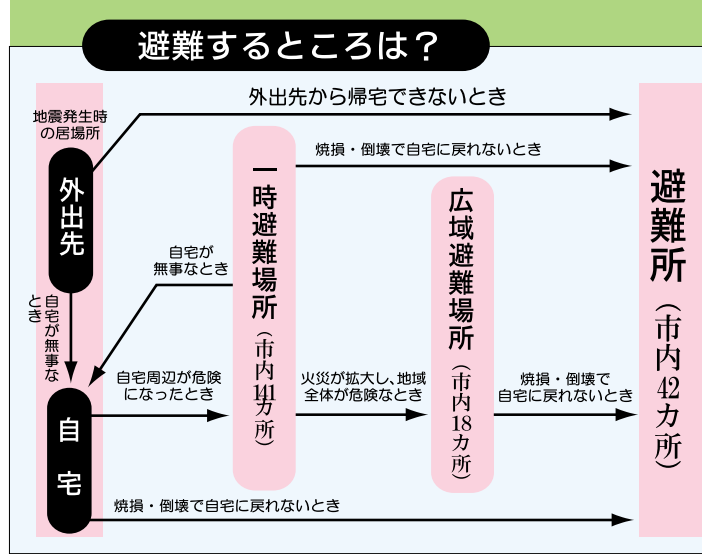
被災者を救出せよ!!

大震災を想定した訓練を実施

去年11月5日に行われた訓練は、取り壊し予定の市営住宅「柏ヶ谷」を舞台に、倒壊家屋の中から高齢者が助けを求めているという設定で、救助・消防・救急の各小隊合計13人が参加。家屋倒壊の恐れがあるため屋根から救出となった。救助工作車のクレーンで屋根に降り、チェーンソー等を使って開けた穴から屋内に進入し高齢者の人形を救出しました。

訓練に参加した隊員からは「新潟の震災の直後でもあり、非常に参考になりました。万一、大地震が発生した際は、この経験を生かしたいと思います」と力強い感想が聞かれました。

▲新潟県中越地震直後に訓練に緊張が走る



やっておきたい 家庭での地震対策

被害を最小限に抑えるために

被害を最小限に抑えるには、地震の怖さを知り、地震に対して適切に行動することが大切です。普段から避難所等を確認したり(左図参照)、身の周りの対策をしておきましょう。また、地震は家族と一緒にいるときに起きるとは限りません。いざというときに備えて、一人ひとりが日ごろから非常事態に対する心構えを身につけておくことが重要です。

◎防災訓練
自主防災組織などが行う防災訓練に積極的に参加して、防災に関する心構えや行動力を身につけましょう。

◎家庭での話し合い
次のようなことを確認しておきましょう。
・家の中で一番安全な場所
・救急医薬品や火気などの点検
・幼児や老人の避難の担当
・避難場所、避難経路の確認
・避難するときには持ち出す物とその分担、非常持出袋の置き場所
・家族間の連絡方法と、落ち合う場所
・子どもに教えておきたいこと
子どもが身を守るために気を付けておきたいことをしっかりと教えておくことが重要です。
・幼稚園や学校などは先生の指示に従い勝手な行動はとらない
・机などの下に身をかくし、頭を保護する
・一人では行動しないで、近くの大人に助けを求め
・倒れてくる恐れがあるので、フロック扉や門柱などには近づかない
◎家の安全確認など
柱や基礎、瓦などの点検をして、危険な箇所は修理や補強を

持ち出し品リスト

- 携帯ラジオ(予備の電池も)
- 懐中電灯(予備の電池も)
- ろうそく・ライター
- ヘルメット(防災ずきん)
- 非常食・水(カンパン・缶詰など。乳幼児がいるときは粉ミルクなども)
- 生活用品(ナイフ、缶切り、ビニール袋、生理用品や紙おむつなども必要に応じて)
- トイレ用紙(災害時は入手困難)
- 筆記用具(油性マジック、メモ帳など)
- 下着・衣類・タオル
- 医薬品(ばんそうこう、解熱剤、包帯、消毒液、かぜ薬、胃腸薬など。持病のある人は常備薬も)
- 貴重品(免許証、通帳、印鑑、健康保険証など)
- 現金(10円玉や1000円札で用意)

◎非常持ち出し品の準備
避難するときには持ち出す最低限の必需品を準備しておくことが大事です。非常持ち出し品(左表参照)を、デイパックなどに入れていつでも持ち出せるようにしておきましょう。重さの目安は、男性で15kg、女性で10kg程度です。また、災害発生後、水道、ガス、電気などが使えなくなることが考えられますので、復旧するまでの間を過ごすように3〜5日分の水や食品、固形燃料などを非常備蓄品として自宅に用意しておきましょう。

◎家具の固定
家具の上には重いものを置いたり、ペランダに植木鉢など落ちる可能性のあるものは置かないようにしましょう。
・窓ガラスや食器棚などは飛散防止フィルムを張り、ガラスの飛散を防止しましょう
・フロック扉や石積みなども、安全確認し、必要に応じて修理しておきましょう
・家具や家電製品は固定し、転倒を防止しましょう

◎火災発生時の備え
火災発生時には、初期消火が効果的です。消火器やバケツなどを備えておきましょう

◎家具の固定・小さな地震でも火を消す習慣を
できない可能性があります。「地震になったら火を消す」といわれたら、強い揺れを感じたら、火の元を絶たないまま激震が続いた場合、10分程度で天井まで火が燃え移り、消火は困難になります。平時に火災が発生した場合、数分以内に消防車が現場に到着し、消火活動を開始できますが、地震発生時には、電話が不通で消防署に通報できなかつたり、建物倒壊により、現場へ到着し、火災が広がるとなると、火の元を絶たないまま激震が続いた場合、10分程度で天井まで火が燃え移り、消火は困難になります。平時に火災が発生した場合、数分以内に消防車が現場に到着し、消火活動を開始できますが、地震発生時には、電話が不通で消防署に通報できなかつたり、建物倒壊により、現場へ到着し、火災が広がるとなると、火の元を絶たないまま激震が続いた場合、10分程度で天井まで火が燃え移り、消火は困難になります。

教訓

海老名市に被害が予想される地震と被害想定

(1)東海地震 駿河トラフを震源域とするマグニチュード8クラスの地震(切迫性指摘)
(2)南関東地震 相模トラフを震源域とするマグニチュード7.9クラスの地震
(3)神奈川県西部地震 神奈川県西部を震源域とするマグニチュード7クラスの地震(切迫性指摘)
(4)神奈川県東部地震 神奈川県東部を震源域とするマグニチュード7クラスの地震(南関東地域直下地震、危機管理的に想定)
(5)神埼・国府津-松田断層地震(参考) 断層帯とその海域延長部を震源域とするマグニチュード8クラスの地震(未解明な点が多い)

| | (1)東海地震 | (2)南関東地震 | (3)神奈川県西部地震 | (4)神奈川県東部地震 | (5)神埼・国府津-松田断層(参考) |
|------------|---------|----------|-------------|-------------|--------------------|
| 崖被害数 | ※ | 20 | 0 | 20 | 20 |
| 本道大破棟数 | 230 | 7,000 | 150 | 1,300 | 6,300 |
| 本道中破棟数 | 650 | 5,700 | 1,300 | 3,600 | 9,700 |
| 非本道大破棟数 | 40 | 510 | 10 | 230 | 550 |
| 非本道中破棟数 | 70 | 1,020 | 160 | 470 | 1,100 |
| 出火件数 | ※ | 30 | ※ | ※ | 30 |
| 延焼火災件数 | 0 | ※ | 0 | ※ | — |
| (木造)燃焼棟数 | 0 | 2,300 | 0 | ※ | — |
| 出火件数(高難度) | 0 | 1,120 | 0 | 160 | 860 |
| 出火件数(低難度) | 0 | 2,410 | 0 | 1,320 | 2,460 |
| 死者(人) | ※ | 300 | ※ | 30 | 120 |
| 重傷者(人) | 20 | 140 | 20 | 50 | 100 |
| 中等・軽傷者(人) | 90 | 1,500 | 70 | 320 | 1,100 |
| り災者数(人) | 960 | 36,000 | 610 | 5,500 | 25,000 |
| 避難所避難者数(人) | 290 | 14,000 | 180 | 2,500 | 8,700 |
| 疎開者数(人) | 350 | 17,000 | 210 | 4,100 | 12,000 |
| 上水道支障率(%) | 6.5 | 100.0 | 3.3 | 100.0 | — |
| 電気支障率(%) | 0.1 | 13.3 | 0.0 | 1.0 | — |
| 電話支障率(%) | 2.8 | 22.5 | 2.8 | 4.3 | — |
| 都市ガス支障率(%) | 0.0 | 57.9 | 0.0 | 63.2 | — |

※は10未満
被害想定条件=地震の規模はM7〜8で、冬の晴れた平日の午後6時に発生した場合の被害を想定



▲阪神淡路大震災から10年、気を引き締めて...